栃木県　塩原温泉・板室温泉活性化特集

良質の温泉、グルメ、歴史・文化に触れる旅

4大コンテンツ

いちごとみるくフェア

オリジナルスイーツ提供

那須塩原市産牛乳（生乳生産額本州一）と栃木県産いちご（生産量日本一）を組み合わせたオリジナルスイーツを提供するのが「いちごとみるくフェア」。パンケーキやドリンクなどさまざまな種類がある。

旅館・ホテル、飲食店などで味わうことができる。

旅館・ホテルの料理人や菓子職人がプライドを賭けて創作したオリジナルスイーツは女性や子どもはもちろん、これを目当てに訪れるスイーツ男子も少なくない。

フェアは12月1日～5月10日に実施する。約80の施設が参加する予定。素敵なプレゼントを用意して、観光客を迎える。

朝食イッピン物語

宿最後の盛り上がりこだわりの朝食

旅館・ホテルのこだわりの朝食が味わえるのが「朝食イッピン物語」。朝食をきちんと食べるのが健康の第一歩とあって、宿泊客に人気だ。「また来よう」と思わせる効果も生んでいる。

食材、内容、調理の三つのこだわりで朝を演出する。地元産の米やみそ、朝どり野菜、卵にしても焼いたり、オムレツにしたり、生卵に合うトッピングを用意したり…と工夫を凝らす。

ただ黙って出すだけではこだわりのポイントは伝わらない。どこにこだわっているのか言葉で伝えたり、お品書きで示したりしている。

那須塩原地酒物語

栃木の銘酒飲み比べ

旅に欠かせないお酒。とりわけ地酒は日本酒好きの心を捉える。浴衣姿で差しつ差されつ、まさに旅の醍醐味である。

酒どころのイメージはあまりない栃木だが、江戸時代は江戸への日本酒の一大供給地であり、多くの酒蔵が県南地域にあったという。

酒を造る上で欠かせない水が奇麗でおいしいことから、酒造好適米「夢ささら」で造られる地酒も増えており、ぜひ飲んでみたい。

「那須塩原地酒物語」では、旅館・ホテルが厳選した地酒を利き酒や飲み比べできる。

ある宿はA、B、Cの3セットを用意、いずれも千円で提供。じっくりと味わい、うんちくを語るのもいい。

巻狩鍋フェア

県産食材使用味付けに工夫

肉と野菜が一緒に入った料理で、肉の種類と入れる野菜は問わないが、県産食材を1種類以上使うのが条件。味付けはみそやしょうゆ、塩などで、旅館・ホテルの腕の見せどころとなる。

今年の「巻狩鍋フェア」は、12月1日～3月31日の期間実施。新規の旅館・ホテルや飲食店を含め、49軒が参加する予定。巻狩料理を地元の名物料理、ご当地グルメとしてブランド化する計画だ。

明治の風景「日本遺産」

那須野が原開拓の歩み　歴史ある近代化遺産の宝庫

栃木県北部に広がる日本最大級の扇状地「那須野が原」。2018年5月に「日本遺産」に認定され、那須塩原の新たな観光資源となっている。

日本遺産のロゴマーク

JAPAN HERITAGE

那須野が原は那珂川と箒川に囲まれた約4万ヘクタールの扇状地で、明治初年まで人の住めない荒野だった。

明治政府の殖産興業政策の下、政府の要職だった華族らが私財を投じ大規模な開拓に乗り出し、今日の礎を築いた歴史が評価され、日本遺産認定となった。

山縣有朋、大山巌、乃木希典、松方正義、西郷従道、青木周蔵といったそうそうたる人物が開拓に関わり、彼らの別荘の幾つかは今も残り、当時をしのばせる。

例えば国の重要文化財に指定された「旧青木家那須別邸」は、那須野が原に展開された華族農場における別荘文化を象徴するドイツ様式の建物だ。

また、東京ドーム178個分という広大な土地で乳牛約500頭を飼育している千本松牧場は、元勲・松方正義が開墾したもの。

◇　◇

このほか、那須塩原には世界かんがい施設遺産である「那須疏水」もある。那須疏水は福島県の「安積疏水」、京都府の「琵琶湖疏水」と並ぶ日本三大疏水の一つだ。

旧取水施設や西岩崎頭首工など見ごたえがある。

旧青木家那須別邸。ドイツ様式の建物が美しく、コスモスに映える

那須疏水旧取水施設

元勲・松方正義が開墾した千本松牧場

乃木希典那須野旧宅

紅葉の大山参道

歴史ある温泉地

湯量豊富、多泉質の「塩原温原」　湯治場の雰囲気残す「板室温泉」

奥塩原新湯にある旅館・渓雲閣の「にごり湯」

塩原温泉は1200年以上の歴史を持ち、多くの文人墨客や皇族方が愛した温泉地でもある。湯量豊富で景観の良い温泉地として栄えてきた。半径5キロ以内に150もの源泉があり、毎分1万リットルの湯が湧出している。

特筆すべきは、日本に10種類ある泉質のうち、実に6種類を有するということ。美肌効果のある三大美人泉質（炭酸水素塩泉、硫酸塩泉、硫黄泉）が一つの温泉地にあり、ほとんどの宿が温泉水千ミリグラム以上の美肌の湯だ。

温泉に含まれているメタケイ酸は天然の保湿成分で、肌の新陳代謝を促進してツルツル美肌の効果があり、女性客に人気がある。また、七色温泉でもあり、好きな色で宿を選ぶのも楽しい。

板室温泉は1059年開湯の歴史ある温泉地。効能の良さから「下野の薬湯」と親しまれ、たくさんの湯治客が訪れた。

古い歴史と昔ながらの情緒を残しながらも、最近はモダンな新しい旅館が立ち並び、懐かしさと新しさが調和している温泉地で、静かなたたずまいを好む人にはうってつけだ。

泉質はアルカリ性単純泉などで、刺激が少なく、ゆっくりと時間をかけて体を温めると日頃の疲れやストレスがとれる。

レトロ感漂う板室温泉の中に新しさが調和している旅館「ONSENRYOKAN山喜」

ぶら下がっている綱をつかんで入浴する昔ながらの入浴法「綱の湯」（板室温泉）